第 25 回東大阪国際交流フェスティバルまとめ

◆参加者数 4,000 人 ◆出店数 23 団体 ◆舞台演技数 21 (第 24 回目までの演技数 693)

◆経費

収入	○補助金・賛助金・名刺広告 1,481,000 円 (見込み) ○出店者協力金 43,600 円 (見込み) ○雑収入 51,000 円 ○寄付金 237,771 円 ○繰越金 8,669 円 ●収入合計 (22/11/17 現在) 1,822,040 円 ●予算 1,853,440 円
支出	○ ●予算 1,853,440 円

◆まとめ

		感想・意見等
舞	パレード	・会場入場後の 2 列に分かれての行進は迫力があり圧巻、中国の人たちの表情も生き生きしていた。
台	演技	<p>・(呉龍浩名誉顧問 インタビュー) 最初、このイベントが始まる前には多文化共生は市民権を得ていないときだったが、自治会を回っても知らん顔でした。それでも 3 か月をかけて地域を回り徐々に理解を得ながら進んできました。始まった後は案外、市民もたくさん会場に来てくれて協力してもらえました。いまは民間団体が中心になってやっていますが、民間ではなくてどちらかと言えば行政とパイプを強く持って進めてほしいと思います。民間団体だけではなく行政がいると幅が広がります。それと若い人がもっと加わって育てること、経験がなければできないので若手を探してそこと連携を図っていくことが力になるのではと思います。</p> <p>・(坂口久代名誉顧問 インタビュー) 第 1 回目はどうなるかと思ったけど、今振り返ると 25 回まではあつという間だったと思います。第 15 回の時に三ノ瀬公園に梅の木を植林しましたが、今はとても大きくなって木と一緒にフェスティバルも育ってきたと思います。市民のみなさんの理解を得て参加者が数千人から年々増えてきて、これまで継続されたことに意味があります。今年は飲食が禁止されたので残念ですが、いつもは食べ物など 50 店舗ぐらい色々な国の食べ物がほぼ完売になるぐらいで、これまで雨によって流れることもなく楽しく食べることと衣食住が合わさったこういう国際的なイベントが東大阪でほかにないということに誇りを持っています。いまよく言われる多文化共生社会という自分と違ったものを受け止めて心豊かに暮らしていくこと、これは人と人のつながりでとても大事なことで、このフェスティバルは交流の場ですから、そこからまた次につながってほしいのです。フェスティバルも継続してほしいと思います。</p> <p>・(映像撮影 田中寛治) 朝鮮初級学校の子どもの舞台はいつも素晴らしく、見入ってしまう。国際交流フェスティバルに子どもの参加や舞台への子どもの出演が少なくなるのは本当に淋しい。</p> <p>・(初級学校舞踊部部員 インタビュー今日の「ミンジョルノリ」はお正月に久しぶりに会って楽しく踊っている作品です。緊張したけど最後まで楽しく踊れました。週に 5 回ぐらい練習していますが、朝鮮舞踊の楽しさやすばらしさを伝えられればと思います。今日の出来は百点でした。)</p> <p>・(客席からの声) これだけいろんな国の歌や踊りを一度に見ることはなかなか無いし、それぞれがユニークで素晴らしい。</p> <p>・(コリア舞踊団クスル) 第 25 回東大阪国際交流フェスティバルの成功、おめでとうございます。三年ぶりのフェスタとあって、スタッフ、出演者、売店のメンバー、お客様の嬉しさと活気が伝わる一日でした。多くの皆様の前で朝鮮舞踊を披露し、温かい拍手をいただくことができ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。</p> <p>・(アリランの会) 三年ぶりのフェスティバル開催で、本当にご苦労が多かったと思います。ありがとうございました。飲食ブースがなく、舞台発表だけのフェスティバルがどんな雰囲気なのか想像が出来なかったのですが、たくさんの方々が集まり、フェスティバルが盛り上がっていて本当に驚きました。遊びのコーナーや、各ブースの工夫も素晴らしかったです。フェスティバルがあることで、たくさんの方々が集い、公園の木々の下で各々踊り楽しんでいる姿を見て、やはりどんな形であっても、みんながこのフェスティバルに来て、楽しめたかったんだと実感しました。私共のチームも出演予定者がコロナ陽性で欠けてしまい人数が減ってしまいましたが、こ</p>

のフェスティバルを目標に一年間、練習してきました。応援し見に来てくれる知人達もフェスティバルを満喫し、「やっぱり、このフェスティバルはいろんな国の人と会えて楽しいなあ。」と言っていました。実行委員会のみなさんの並々ならぬご尽力あっての、今回の開催だと心から感謝します。家庭と仕事に明け暮れる主婦達が、踊りを発表し、イキイキと出来る日でした。出店の回りでお互いが拍手を送りあって、たくさんの民族の方々との交流が出来た幸せな日をありがとうございました。

・(タラート&鞠雪) 先日の東大阪国際交流フェスティバルでは、通常とは異なる部分に気を使われながらの開催で、ご苦労も多かったことと拝察します。そんな中、出演者としては、大変スムーズな運営のおかげで、気持ちよくステージを務めることができました。特に音響が、モニタースピーカーの音量が十分あったのと、マイクの音質が良かったことでとても歌いやすく、パフォーマンスの途中で「めっちゃ歌いやすいな〜」と思って、うっかり歌詞を飛ばしそうになったほどでした。また来年、より一層充実したフェスティバルになりますよう。私たちがこの素晴らしい催しに参加できることをとてもうれしく思っています。

・(コーラスムグンファ代表 姜錫子 インタビュー) ムグンファは2回目からずっと出演していますが、この地域に住んでいてたくさんの在日朝鮮人・韓国人をはじめ外国人の人たちが食べ物や華やかな衣装を舞台上で披露して日本人たちと一緒に楽しめる空間、この舞台がとっても貴重ですし、人というのはどんな国の人でも文化を共有することで理解が深まると思うし仲良くなれると思います。その意味で私はこの三ノ瀬で開かれる国際交流フェスティバルはとても意義が深いと思うし毎年来るたびに感じています。コロナでフェスタが今年も中止されたというのを聞いて練習している人たちは、どんなに舞台に立ちたくてしかたなかったと思います。私達ムグンファもそうです。今日もこんなにたくさんの人たちが集まってくれていて、このフェスタは永遠に続くべきだと思います。コロナに負けずに楽しめる空間であつたらと思います。日本において、アジアや世界の人たちと交流してみんなで仲良くしていくという先進的で先駆的な役割をこのフェスティバルは担っていると思うので、これを消さずにいい意味でもっともっと知らしめて行かなければならないと思います。

・(オモニコーラス インタビュー) 今回の舞台の出来は非常に良かったと思います。いい天気にも慣れてとチマチョゴリを着て良かったです。27年前のことははっきりと記憶はありませんが、今は歌がとても上手になったと思います。本当、今思えば、でも27年前は私達おばちゃん集まりだったのですが、いままで練習してきたので今回は上手に出来たと思います。最初のころは生歌だったのですが、屋外だから客席の向こうの人たちは何を歌っているのかわからなかったもので、5~6年前からここでCDに録音してから会場でもCDと歌と一緒に歌うことにしたらよく聞こえるようになりました。こんなネタばらしでもいいですかね。そしたら会場の人たちもみんながよく聞こえて上手だったねと言うのが広がったと思います。昔ほど部員さんはいないけれど、発声もちゃんとできているし上手だと思います。今回、25回で出演出来て光栄に思っています。オモニコーラスを始めたきっかけは、クゴの時間にみなさん誰も「アーヤーオーヨー」の言葉もわからなかったもので、クゴの先生が大変困って音楽から入ろうとなったのが始まりです。それが今も続いています。私が入ったきっかけはクゴを習い始めて楽しそうだったからですが、コーラスに参加するともっと楽しいから自分の歳よりも若く感じます。オモニコーラスは歳がいても出来るので続けていきたいと思います。オモニコーラスは歌で発音もきれいになります。東大阪でこのような場があることを知って、いま世界的に紛争も多いですが皆が一つになればいいなという思いでとても貴重と思って参加しています。1年に1回フェスティバルに参加していますが、他の国の人たちも上手だと思うのですが毎年レベルが上がっているのはいいことだと思います。来年参加できることを楽しみにしています。フェスティバルでは珍しい踊りなどが見られることや、北朝鮮の子ども達が踊るのを見ることはとてもいいなと思います。東大阪には多くの外国の人が住んでいるので、屋外の演奏でそういうのを見ることが出来るのはいいなと思います。コーラスを発表することでステータスを得たいということもあります。昔は汚いと言われたが、今ではこうだということを見てほしいし外国の人と同じ思いだと思います。これからも長く続くよ

うに期待します。フェスティバルは年間の予定に入っているのですが、その他の予定はそれに合わせて入れていきます。子どもの話ですが、以前に孫たちが出店を夜店感覚で楽しんだと思うのです。いま世代が変わってきて人を集めることが大切です。知っている人は知っていると思うのですが、もっと広がりをもって、子どもや孫の代まで続いたらと思います。色んなプログラムを作って子どもや家族で見られるようなものにしてほしいです。日差しが舞台では強すぎるのが難点です。

・(夜間学級生徒 (李景芝 リジンチ) : 中国語の通訳を通じながらのインタビュー)

生徒の中ではみんなで一緒に歌ったり踊ったりするのがとても楽しいと話しています。色んな国の歌や踊りを見てとてもうれしいです。フェスティバルは楽しいです。もっともっとたくさんの国の人が参加できることを祈っています。これからもフェスティバルと夜間学級とは仲良く一緒にやっていきたいです。もっと宣伝してもっと多くの人が見に来るようになってほしいです。

・(司会メッドロマシィ インタビュー) キャラメルキッズに参加していた子ども達もだいぶ大きくなって、大きい子は高校生とか中学生になって忙しいのでなかなか来れません。このフェスティバル、文化の日になったら毎年毎年楽しみです。友達などもいっぱい連れてきましたが東大阪でもいろんな友達できて、特に私達のアフリカの文化では友達を大切にするのでその出会いがフェスティバルにはあるのでそれがとても良いです。そして、国際共生ネットワークの人たちと友達になって嬉しいです。キャラメルキッズの子ども達もすごい楽しみにしていて、みんな朝早くから晩までここにいて印象に残っています。子ども達は東大阪と言えばこのフェスタと思うのです。子ども達が好きなことがとても印象に残っています。色々な国の人が東大阪に来た時にフェスティバルは役に立つと思う。それは大きいフェスティバルだから、そしていろんな人市長迄来るし、英語の先生も来ているし、共生ネットワークのメンバーもすごく頑張ってくれるのでいいことと思います。私にとってもフェスティバルは力になっているし、このことは自信を持って言えます。この FESTA を毎年楽しみにしています！僕も 20 年ぐらい前から参加させてもらっていて、やはり思い入れが強いです！今年は久しぶりの開催で、人も少ないかと心配していましたが、そんなことはなく、やはり愛されている FESTA だとあらためて感じました！また、これからも毎年参加できることを楽しみにしています。It's the best place to be on Culture Day.

・(野田義和東大阪市長 舞台あいさつ) 皆さんこんにちは。今日で 25 回目になった国際フェスティバル、コロナで 2 年間お休みをしていましたので 27 年間この三ノ瀬公園でアジアの色んな国の人たち、今ではアジアからアフリカまでいろんな国の人たちに集まっていただくようになりました。先月の 20 日には文化創造館でアフリカビジネスセミナーを開きアフリカの人達とのビジネス交流に市も協力させていただきました。この 5 日 6 日に花園ラグビー場周辺で花園エキスポ・花園万博を行います。東大阪から多くの国々と世界中の人々と仲良くなって交流をしているんなものを生み出して行こう作り出して行こう、作り出した果実を私たちの子どもや孫に残して行こう、そんな思いがこの国際交流フェスティバルに込められていると思っています。なかなか 25 回の開催は大変だったと思います。歴代の実行委員の皆さん、このフェスティバルの歴史はすごいなと思います。このすばらしさを皆で受け継ぎながら、改めて東大阪からアジアそして世界中につなげていきたいそんな思いを共有できる一日にしていきたいです。実行委員のみなさんに感謝とお礼を申し上げます。

司会

・新人 3 人での司会となりましたが、舞台スタッフ (市外教 5 名程度、総連 1 名、事務局 1 名) のサポートやメッド氏の頑張りでうまく進行できました。

・(舞台出演と手話通訳「シュワ'k」) 3 年振りの開催、おめでとうございます。少しずつ日常が戻ってきたように感じました。今回も楽しく過ごさせて頂き、実行委員のみなさんありがとうございました。いつも楽しみにしていた色んな国の食べ物がなかったのは残念でしたが、持ち帰りが売られていたのが嬉しかったです。その場での飲食が出来なかった分、今までの中で、1 番舞台に興味を持ち見て下さっている方が多かったと思います。舞台上で発表させて頂く者として見て下さる方が多く、反応を貰えるのは嬉しかったです。通訳者としても、立ち

		位置の事や事前打ち合わせ、変更事項もこまめに伝えて下さっていたので、とても助かりました。手話通訳も言語の1つとして、今後もつけさせて頂けたら嬉しいです。
	進行	・約30分の進行遅れ(全体での遅れや家園の着替えなど)があり、最後の抽選会は駆け足となりました。
	抽選会	・時間が押していたものの舞台スタッフの機敏な判断で多くの賞品(1等1個、2等2個、3等17個以上:各出店からの提供)の当選者への授与はうまくいきました。
	更衣テント	・更衣テント内へのイスの配置についての要望はありましたが、大きな苦情もなく舞台近くへの男女別3テント配置は適切でした。
	その他	・舞台の最終盤に横断幕「第25回」の「2」が途中で外れ、「第15回」になってしまいました(「2」は前回のまま使用したため粘着力が弱くなっていたようです)。 ・PA位置を舞台東側の配電盤近くに移動、20A×4の電源となったが、出店で使用する場合に備えて次回はもう一つ増加できないかの検討が必要です。
出店	飲食の規制や企画など	・(草の根共生会 蓮) 例年と変わらないお客様の数に喜ばしく思いましたが、いつも出店されている飲食店がない事に「解っているんだけど・・・」と、残念そうにお話をしてこられる方が多かったです。理解しているのだけど楽しみの中の1つであるのは解る気がしますので、早く新型コロナウイルスの波が静まり、例年の時間で飲食店から美味しそうな香りが漂うフェスティバルになることを願っています。色々な制限があるなか、開催に感謝します。 ・(韓国コスメ Sodam) 今回出店として初めて参加させて頂きました。以前はオモニ会、民族講師会としてこのイベントに参加したこともありますが、コロナ禍で例年より規制があるなかで久しぶりに地域の皆さんが集まり、楽しく盛り上がったと思います。来年もよろしく願いいたします。東大阪地域の多文化共生に少しでも力になればと思います。 ・子ども達が射的やスマートボール、青年PJ、ZUNZO、ICHIなどの企画に殺到し賑わいました。 ・ZUNZOで用意したサブローごまなどの工作は売り切れの繁盛となりました。実行委員会のクイズラリーには140名弱が参加しました。 ・(ICHI) このたびは初めて国際交流フェスティバルに参加させていただき、とても楽しい交流と新たな出会いがあり貴重な体験となりました。心より御礼申し上げます。
	その他	・大阪府海外青年協力隊OBOG会ブースを訪れた人に海外青年協力隊への参加希望者がおられました。 ・テキヤの出店はありませんでした(ごみ捨てが少なかった一つの要因かも知れません)。
映像	インタビュー	・インタビューを受けた方のほとんどが、次回開催を心待ちにしているとの発言がありました。 ・朝鮮初級学校の子どものやり切ったという自信に満ちた声がありました。 ・東大阪でのこのフェスティバルが、全国的にも誇れる国際交流の役割を果たしているとの発言がありました。 ・今後、行政が主体となるようなフェスティバルとなるべきとの意見もありました。
	撮影	・(映像撮影 田中寛治) 舞台の撮影と合間をぬってのインタビュー撮影は、ハードなスケジュールとなりました。音声専門のスタッフがいないため録音のon・offを誤り、一部舞台音や会場の音が収録できませんでした(例えば、メアリの歌唱時に舞台前で踊っておられた方の映像はありますが音がありません)。再度のインタビューを実施して補うことにします。会場の一般参加者の声を拾いたかったです。編集にあたっては、舞台のいくつかをピックアップし編集することにします。写真を挿入することで全ての舞台発表を網羅します。出店についても映像が少ないので写真を活用します。 ・写真撮影での脚立の準備忘れ(夜間学級から急きょ借用)、カメラの所在確認が必要です。
	マスコミ	・東大阪ケーブルTVが来場し取材撮影を行いました。

会場整備	早朝準備	・実行委員会スタッフや出店の協力で短時間で会場準備ができました（脚立やマイクなどの機材借用をはじめ夜間学級の多くの教員の方々の協力あり）。
	コロナ対策	・本部や出店、トイレへのイラスト設置によるコロナ対策の表示や舞台からのアナウンスにより対策の周知を行いました。消毒剤やせっけんをトイレ等に配置しました。飲食禁止としたのですが、一部舞台前椅子席での飲み食いがあり配慮の要請を行いました。
	舞台客席	・強い日差しにも関わらず舞台前観客席（椅子 230 設置）は、常時 7 割程度は埋まっていました。従来の飲食スペースのテーブル席の場所は、テーブル未設置のため人がまばらな状態もありました。
	レンタル	・出店で申し込んだ机が配置されないなど、配布に問題がありました。 ・フェスティバルの終了時にレンタル事業者から机、コードリール各 1 不明との連絡を受けました。
	トイレ	・フェスティバル終了後の簡易トイレ便器には、ペーパーが山なりとなっていました（水の流れが少ないとの指摘もあり、レンタル事業者への機能確認も必要）。
	ごみ	・予想に反して終了後の会場内でのごみ散乱は、あまり見られませんでした（飲食禁止の影響）。
	喫煙	・会場北側に 1 か所、吸い殻入れを設置しない喫煙所を設置しました。
	舞台足場	・請負による経費はかかりましたが、舞台、足場、横断幕とも安全かつ見栄えの良いものとなりました。次回から山田氏の手伝いが困難なため落下防止板（老朽化でボロボロ）の設置は自前で実施する必要があります。
	パンフレット	・数百部の残部があり活用方法の検討が必要です。
警備	駐輪・駐車	・警備の報告では駐輪、駐車に関する苦情は特にありませんでした（いつもの苦情者からのクレームもなし）。 ・駐車許可証の発行は多くは、ありませんでした（出店数の減少及び飲食禁止による搬入物の減少が影響）。 ・オープニング前の会場内駐輪の扱いについて、駐輪場所の明示要請がありました。今後プログラムへの場所明示などの検討が必要です。
エピソード	<p>・今回、フェスティバルに来られて何年かぶりに故郷の友人と再会できたベトナムやアフリカの方々のエピソードがありました。ベトナムの方は会場に来て偶然に故郷の友人と出会い、数年来の再開を喜んだとのこと。流れた再開の涙が、フェスティバルの一つの役割を物語っているようです。</p> <p>・日本中に吹き荒れる韓国・朝鮮人の子どもたちへのヘイトクライムや中国への嫌悪感が、フェスティバルにおける嫌がらせにつながらないか気がかりな中でしたが、そうしたことも杞憂でした。</p> <p>・野田市長に夜間学級の舞台でのアピールについて、連絡があったそうです。舞台での署名のお願いなど政治的なことは、フェスティバルにふさわしくないのではということです。市長としては市内に苦勞して二校の夜間学級を作っているのに反対しているように映ったとのことですが、大阪市立天王寺夜間中学校の統合のことと聞き市内のことではないと理解したものの、フェスティバルの場で署名はどうかとのことでした。</p> <p>こうしたことについて、学校教育部から布施・意岐部両夜間学級には連絡が入っているそうです。</p>	
今後	・今回の取組の中で、事務局の高齢化をどのように青年につないでいくのが課題との指摘がありました。青年達にとっては、現在の姿のままのフェスティバルの継続開催は難しいだろうとの意見でしたが、今後の重要な検討の課題です。	